

# Weekly Michael's News

2018年4月9日発行 No.64

## <今週の聖句>

『わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。』  
(新約聖書 ローマの信徒への手紙 第12章4節)

## <ついに始まる記念すべき50年目の歩み!! 心を合わせ祈る始業礼拝&新任教職員就任式!!>

4月を迎え新しく始まった2018年度、神戸国際大学は50周年を迎えます!! 2日午後に行われた始業礼拝では、前田理事長の奨励から、改めてこの大学の土台である建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」の言葉に立ち返り、上記の聖書箇所が示すように教職員が協力し一丸となってこの一年を歩み抜く必要性が説かれました。また同時に行われた就任式では、新任の教職員一人ひとりに辞令と聖書が手渡されました!! メモリアルイヤーに新しく赴任された教職員は以下の通りです。

北 邦弘さん、上田 恵美子さん、バナ セオドアさん(経済学部)  
瀬戸口 達也さん(国際別科) 岩瀬 弘明さん、秋月 千典さん、  
木下 めぐみさん(リハビリテーション学部) 岩崎 康子さん、  
松下 真弓さん(教学センター) どうぞよろしくお願いいたします!!



手渡される聖書こそ職務の証

## <新しい始まりは新しい戦いの幕開け!! 体育会各部の壮行礼拝を連続で挙行!!>

新学期を迎えて早々、体育会活動を行っている学生さんたちは、春季大会やリーグ戦など新しい戦いを迎えます!! 先日は、大会出場を控えたサッカー部、ハンドボール部、硬式野球部の健闘を祈るため壮行礼拝を行いました。大会用ジャージ等に身を包んだ学生たちは精悍な瞳を輝かせながら、大きな声で聖歌を歌い、宣誓の言葉を述べてくれました。監督・コーチからも激励の言葉を受け、向かうべき役割や責任、そして改めて勝利への想いを強く自覚している様子でした!! クラブによってそれぞれ目標は違いますが、悔いの無いプレーで夢を達成し、次は祝勝感謝礼拝を行えるようチャペルからお祈りしています!! (^O^)/ フレーフレー



胸に輝く学章(プライド)



学生部長小枝先生の前で堂々と宣誓



祝勝礼拝ができる事を願って...



## <与えられた出会いと恵み、深い感謝に包まれながら…2018年度入学式を挙行!! >

新しいスタートと言えば、もう一つ欠かせないのがやっぱり「入学式」!! 4月6日(金)に神戸国際大学の2018年度入学式が、神戸文化ホールで執り行われました!! この日、入学が許可されたのは、経済学部337名(留学生を含む)、リハビリテーション学部が76名と、計413名の新入学生を迎える事ができました。日本社会は、急激な少子化と経済不況が続いており、特にこの2018年度は学生数が急激に減少する事が予想されており、私立大学にとっては学生確保の難しさが大きな課題となっていました。このように多くの学生を、しかも世界中から迎える事ができた、その根底に流れている大きな見えない力に深く感謝したいと思います。

新しい歩みをこのKIUで始められるお一人おひとりに主の導きが豊かにありますよう心から祈りしています!!

本当におめでとうございます!!



喜びと同時に使命を語る下村学長

### <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月2日(月) 前田 次郎(理事長)

(始業礼拝&新任教職員就任式奨励)

始業礼拝に際し、暫くの間、瞑想をしたい。背筋を伸ばし、目を閉じて、息をできるだけ深く吸って、そして静かに息を吐く。そこに意識を集中して欲しい。(約2分間の沈黙)

只今の時間、人によって呼吸の回数は異なるが、はっきり言えることは自分のこの小さな呼吸も「与えられたもの」であるという事だ。次に、先ほどの聖書箇所(ローマの信徒への手紙12章4節~)を各自静かに読み直して欲しい。(暫くの間静かに黙読)

この聖句を大学創立者の八代斌助師父は簡潔にまとめ、建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」と表わされた。私たちの集う社会は、今この時も様々な問題で溢れているが、それらを解決するヒントが、半世紀の間この大学を支えてきた言葉「仕える」生き方に表されている。

私たちは新学期を迎え、今日から新しい時間を刻み始めている。この年、特にこの大学が50周年という記念すべき時に、改めて「自分は与えられた存在である」ということを自覚しながら、各自の場所で教育という尊い業に励んで欲しい。

4月6日(金) 下村 雄紀(学長)

(入学式 式辞)

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。これから四年間、皆さんがこの学び舎で大学生活を送るにあたり、私が学生の頃に出会ったこの言葉を贈りたい。「ゆっくり急げ」。何か矛盾したように聞こえるかもしれないが、よく考えて欲しい。急いで物事に取り組むと結果が雑になったり、失敗したりかえって時間がかかることが多い。上記の言葉は、限られた時間を意識しながら、しかし与えられた役割や仕事に忠実に、そして丁寧に向き合う事の大切さを説いているように思う。この言葉が語られた時代から社会は大きく変化したが、私たちの生きる世界には、どのような時代の変化にも耐え抜いてきた「真理」が存在する。風は見えないが、確かに吹いている。人を愛おしいと思う心は見えないが、愛おしさは確かに存在する。友情は見えないが、友情は確かにある。我が子を慈しみ、孫を自慢に思う心も、目には見えないが間違いなくある。目には見えないものにこそ、真実がある。それに気付く事が、自分の声を聞くことであり、真理に触れることでもある。これからの四年間、社会や世界で己が何をすべきか、勉学や日々の活動を通じて、それぞれの役割を見出して欲しい。皆さんの学生生活が実り多きものであることを心から祈っている。

(文責:野間 光顕)